

## IOSCOによる市中協議文書「COVID-19パンデミック発生下における取引所及び市場仲介業者のオペレーショナル・レジリエンス」について

証券監督者国際機構(IOSCO)の代表理事会は、COVID-19パンデミック発生下において取引所及び市場仲介業者のオペレーショナル・レジリエンス<sup>1</sup>に関して得られた教訓についてフィードバックを求めている。

本日公表された「COVID-19パンデミック発生下における取引所及び市場仲介業者のオペレーショナル・レジリエンス」において、IOSCOは、パンデミックが取引所と市場仲介業者(併せて「規制業者」という)に及ぼす影響について報告している。これらの規制業者は、移動や事業活動の制限、著しい市場のボラティリティや記録的な取引量が生じた期間など、前例のない困難の中において、概ねオペレーション上の強靭性があったことを示し、顧客及び経済全体にそのサービスを提供し続けた。また、パンデミックはアウトソーシングに関する取決めを混乱させ、サイバーセキュリティのリスクを増大させるとともに、既存、新規、新興の技術の利用を加速させた。

本報告書においてオペレーショナル・レジリエンスとは、規制業者が混乱期において、重要な業務を遂行する能力と定義している。パンデミック発生下における取引所や市場仲介業者の強靭性は、主にこの分野におけるこれまでの取組みに支えられているといえる。既存のIOSCOによるオペレーショナル・レジリエンスに関する原則、勧告及びガイダンスは、規制業者及び規制当局がオペレーショナル・レジリエンスを検討する際の中核的な構造を提供しており、本報告書の調査結果は、上記枠組みがうまく機能したことを示唆している。

しかし、パンデミックは、規制業者のオペレーショナル・レジリエンスを更に改善する方法に関する教訓を学ぶ機会を浮き彫りにした。そこで本報告書は、規制業者の将来のオペレーショナル・レジリエンスに関する取決めに資するために、いくつかの観察事項を提示し、パンデミックの教訓を特定している。

- (a) オペレーショナル・レジリエンスは、技術的解決策のみならず、規制業者における手続、施設及び人員にも依存する。
- (b) 特にサービス提供者とオフショアサービスについて、潜在的なリスクとコントロールの変化を適切に評価するために、混乱の前後において依存関係と相互関連性を考慮する。
- (c) 業務継続計画(BCP)の見直し、更新及びテストを行い、危機の長期的性質や複数の場所への影響、リモート又はハイブリッド業務の影響などのパンデミックの教訓が、BCPに反映されていることを確保する。
- (d) 効果的なガバナンス枠組みは、新たなあるいは予期されなかった状況におけるオペレーショナル・レジリエンスを促進し支援する。

<sup>1</sup> 後述のとおり(自然災害等の)混乱期において、取引所及び市場仲介業者が重要な業務を遂行する能力を意味する。

(e) より自動化された、紙の文書および手動プロセスへの依存が少ないコンプライアンスおよび監視プロセスは、遠隔化された労働力により良く対応できる可能性がある。規制業者による遠隔化された労働力のモニタリング及び監視アレンジメントの見直しは、リモートまたはハイブリッド環境における継続的な有効性確保のために適切である可能性がある。

(f) 情報セキュリティリスク - 分散化されたリモートワークは、サイバー攻撃を防止し、情報セキュリティを確保する重要性を高める可能性がある。

また、本報告書は、パンデミックの次の段階が進展するにつれて、今後生じる出来事がオペレーショナル・レジリエンスの考慮事項に更なる情報を与える可能性があるとする。

IOSCO は、これらの観察事項に関するフィードバックと、パンデミック発生下におけるオペレーショナル・レジリエンスに関して得られた教訓を募集する。コメントの期限は2022年3月14日。

(Note to the Editor は省略)

(以 上)